

平和とは

読谷中学校一年 地蔵 湊馬

僕は、四月に北海道から沖縄に転校してきました。学校にも慣れたら6月になると、衝撃を受ける出来事がありました。

それは、平和月間です。北海道にいた頃は社会の授業で少しだけ戦争について学習したことがありましたが、沖縄に来て、あらためて戦争についてくわしく学習し、多くの気づきがありました。

総合的な学習の時間に、戦争について特集された新聞を読み、気になった所を切り抜き、感想を書く活動をしました。

記事には、戦争体験者の証言が書かれており、人の死体を踏んで逃げた、生き残ることが怖かったなど、体験した人しか語れない苦しさや悲しみが生々しく書かれています。

また、生徒玄関前でも「平和パネル展」の戦争資料の展示があり、そこでも初めて知る

事実が多くありました。

「飢えをしのぐため、ソテツを食べていた。

調理方法をまちがえると死ぬこともあった。

「ガマの中で天皇のことを思いながら死んで

いった人もいた。」

といった資料は、今がどれだけ幸せなことか

を実感させるものだった。毒のあるソテツを

食べていたのは、それだけ食に困っていたか

らです。

北海道では、総合的な学習の時間に主にア

イヌ民族の衣食住について学習していました

が、今回の平和学習を通して

「地域にまつてこんなに学習する内容が違ろ

ものなのかい。

と驚きがありました。

同時に、私は、どちらの学習にも共通して

いることがあることに気がつきました。それ

は、どちらも「その土地に生きる人の歴史を

知り、平和に生きていることのありがたみを

知る」ということです。

住んでいる場所は違っても、その地域であつた出来事を忘れず、平和に暮らしていくために学習することは、次の世代に伝えていく大切な学習なのです。

私は、これまでこんなにくわしく戦争について考えたことがありませんでした。転校してきたことで、日本にはこんな悲しい歴史があることを知り、激戦地だった沖縄に来てあらためて、戦争のおそろしさを認識することができました。

今を生きる私たちは、そのありがたさに気づき、体験者の思いをしつかりと次の世代に伝えていく責任があります。私はそのことをしつかり胸に刻み、行動していこうと思います。